



乳 児 健 康 相 談

長瀬 保育所ですから、三才ぐらいから五才ぐらいの園児が同じ中で生活しますが、どうしても上の子と下の子との力関係がでてるわけです。そうするとどうしても下の子はある意味で上の子に恐怖心を感じたりして登園拒否をおこしたり、あるいは上の子が下の子をいじめたりということがでてきます。そういう点で、保育所の先生方は子供たちにもっと集団生活の基本となるもの、つまりこれは絶対にしてはいけないこと、ある程度は許されることとの認識を指導してほしいと考えます。



長瀬 武昌 さん

町長 今の保育所の先生は、二代三〇代といった若い人が多いので、道徳的な面での指導がなかなか難しいのではないかと感じています。それでたとえ町内で適切な講師を選んで行儀などしつけの指導法について定期的に研修会をもうけたらという感じもします。

私の考えでは、人間的な教育という面では、幼児期でほとんどできあがるんじゃないかと思えます。

教育長 これは脳の発達についての学問的な話ですけど、子供たちの性格なり、物事に感じるといような力は七才までに六〇％が完成するといわれています。

町長 最近家族のあり方が変わり、幼児期の教育が充分できないので、なおさら保育所の仕事が大変だと思えます。また、先生の人選につきましても大変難しい面があります。油谷町としてはこの点において重点的な配慮をしたらどうかという感じがしております。

教育長 長瀬さん、酒井さんからご意見がありました。保育所については、先生方がしつけや社会生活の基本的なルールの指導につ

家庭教育

司会 しつけはこのような子供に育てるとい目標にたつて、乳幼児期の時点でしっかりしなくてはいけないというご意見だったと思います。次に、一般の家庭教育ということについてどのように考えていくか、皆さんのご意見をいただきたいと思ひます。

坂野 子供のしつけは、両親がするというのが家庭教育の根幹ですが、特に、子供に家事や職業の手伝いをさせて勤労の尊さを教えるべきだと思ひます。子供は、両親が一生懸命働いている姿を見て、親子の心のふれあいによって、親子の心のふれあいができると思ひます。それから、もう一つ思うことは、現在家庭教育学級が各所で開かれています。この対象者はお母さんが主体であるということ。時には父親が、あるいは両親で家庭教育学級に参加して家庭教育とはどういうものかを勉強することが大事だと思ひます。

教育長 坂野さんの言われたように家庭で働く喜びを味あわせてやるということは大事なことだと思ひます。ここに昨年町内で子供の家事手伝い等についての調査のデータがありますので紹介します。「子供にできる仕事はどんなにさせている」というのが三〇・四％「役割の分担を決めて手伝わせている」というのが一六・五％、「ど



家庭教育学級